

社員を犠牲にする業務改革！

ダイヤ改正で出されたワンマン拡大ではっきりした

12月16日、会社は「令和5年春ダイヤ改正等について」説明を行いました。この中で要員の増減も示されました。各運輸区のダイヤ改後の要員は運転士では変わらずでしたが、車掌では大幅な増減がありました。増減は美濃太田運輸区等の乗務範囲の見直しと高山線、太多線、紀勢線、参宮線におけるワンマン運転の拡大によるものです。

業務改革のしわ寄せはすべて社員へ

車掌全体の増減は△15です。つまり15人分の車掌の仕事を運転士が行うということになります。これまでもワンマン運転は拡大されてきましたが、賃金や手当に正當に反映されてきたでしょうか。倍近くの仕事をして、それに見合う手当ではありません。これが効率化です、ワンマン拡大により多くの車掌の移動が発生します。業務改革のしわ寄せは全て社員がこうむります。

業務委員会で「これが業務改革の中身なのか」と聞くと、会社は「業務改革の一部を説明している」と回答しました。「アワーフェューチャー」では社員に負担をかけないようなことが書いてありますが、ワンマン運転の拡大こそ仕事量の増大による負担増です。二人で行っていた乗務仕事を一人で行えば当然にも仕事量は増加します。運転士が始発放送で英語で案内するように指導している現場もあります。乗車券類の取り扱い、お客様の対応など仕事は増えるばかりです。

私たちはワンマン導入時から安全が損なわれると主張してきました。大きな災害や事故などが発生したときに二人で行っていたものを全て一人で行わなければなりません。複線区間ならば列車防護は前方も後方も一人です。旅客誘導の場合も事象発生への対応・車内点検・車両留置手配・指令等への連絡など全て一人で対応です。

【説明された要員増減】

施策内容	箇所	担務	要員増減
2両ワンマン運転実施の拡大等	大垣運輸区	車掌	+ 14
	美濃太田運輸区	車掌	△ 16
	高山運輸区	車掌	△ 6
	亀山運輸区	車掌	△ 8
	伊勢運輸区	車掌	+ 1

私たちは雇用、安全、ゆとり、地域の利便性等々多くの問題をはらんでいる
「業務改革」に対して反対の取り組みを強化していきます！